



フランクフルト通信



第1号 2020年5月
2019年度派遣
フランクフルト日本人国際学校
奥田 恵子

コロナウイルスの影響で・・・

2019年度派遣の奥田恵子と申します。ドイツ・フランクフルトで勤務を開始して1年が経ちました。3月は、新型コロナウイルスの影響により、不本意な形での終了となりました。大変残念でしたが、簡易的にでも卒業式・修了式・離任式を行うことができました。

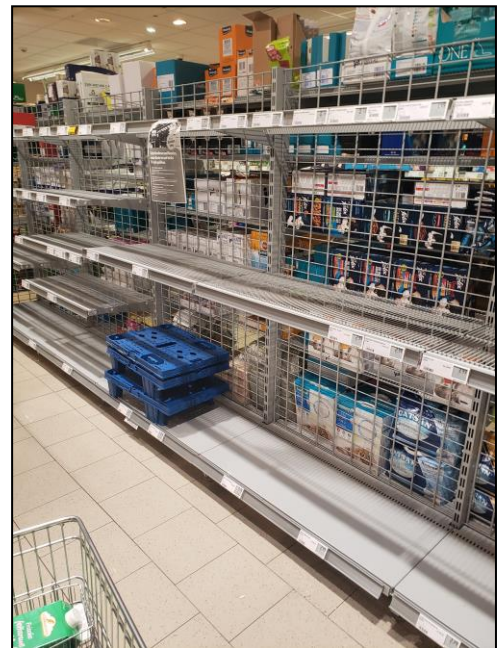
3月末からのフランクフルト市内の状況は、普段のそれとは違い、とにかく人がいませんでした。もちろん、店は、スーパーマーケットや薬局以外は、ほぼすべて閉店していたため、町は閑散としていました。歩くときもなるべく人と離れ、電車の中も一定の距離を開けて座っている状態です。離れて座るのは、人が少ないからできることですが・・・。

現地の企業は、3月中旬くらいから在宅勤務に切り替えたところが多いそうです。日系企業は帰国するように通達があったところもたくさんありました。スーパーマーケットでは、客同士の距離を保つためにカートを利用しなければならず、かつ入場に制限があります。カートを利用するのは、物理的に距離を保つためです。トイレットペーパー（右参照）や手洗い石鹸なども手に入らない状況でした。

まさか、初めての通信がこのような内容になるとは思ってもいませんでした。一日でも早く、全世界の感染が止まり、いつもの日常を過ごせるようになること、何の不安もなく学校がまた始められることを祈っております。





普段は人がたくさんいる、レーマ広場近くの通り



タイミングよくいけば、買えるという噂



ドイツ基本情報

人口	約 8,315 万人
面積	35.7 万km ² (日本の約 94%)
首都	ベルリン
言語	ドイツ語 
国旗	黒, 赤, 金の三色旗 

5月になりました

ドイツは4月末に規制が緩和されてから、5月に入りほぼすべての施設や店が再開しました。トイレトペーパーも無事に購入できました。

電車内ではマスクをつけたり、一度に入店できる人数を制限したりはあるものの、今後は、ほぼ通常通りの生活ができるそうです。

ヨーロッパではマスクをつける文化がありません。

マスクをつける = 重病人

という感覚だそうです。なので、これまではマスクをつけるときも学校内だけでつけていましたが、コロナウィルスが流行りだしてからは街中でもよく見かけるようになりました。しかし、規制緩和されてからは電車内やスーパーマーケットなどの店でしか見かけなくなっています。規制緩和されたドイツの感染が、このまま終息してくれることを願うとともに、日本が1日でも早くもとの生活に戻ることを祈っております。鳥取県は学校が再開されたとニュースで見ました。なんとかこのまま行きたいですね。

7 Frankfurt日本人国際学校の様子

さて、学校の様子はというと、4月27日から中学3年生が登校し始めました。【進路に関わる学年から登校】ということでドイツ政府から通達があり、それを日本の学校制度に当てはめて、更に許可をとっての再開です。

ドイツの教育制度では、小学校4年生で進路を決定しなければいけません。（これが人生最初の選択です！早い！）なので、ドイツでは小学校4年生の登校の話が出ていました。しかし、登校後に子ども同士で距離を保つことが年齢的に難しいだろうということになしたそうです。

5月7日時点で、日本人学校の中学部と小学校6年生の登校が決まりました。5月18日から登校開始です。その他の小学校1年生～5年生は現時点では6月2日再開予定だそうです。現在は、ZOOMによる1時間の授業と、課題を週に2回メールで送付しています。教材研究にしっかり取り組める喜びがある反面、子どもたちと直接会えずに始まった今年度なので、やりにくさと寂しさを感じています。ですが、この規制緩和がうまくいけば6月に会うことができるので、それまでは保護者の方の協力を得ながら学習を進めていきたいと思えます。



誰もがマスクをして乗ろう

お互いを守るために、マスクをつけよう！健康を保つために！

ポスターに載せられる言い回しが分かりませんが、こんな感じの内容です。地下鉄構内にこのポスターを見かけるようになりました。

これは同じ場所の春と冬の写真です。私の通勤路です。冬は霧がよく発生します。



菜の花畑と青い空がとてもきれいでした。